

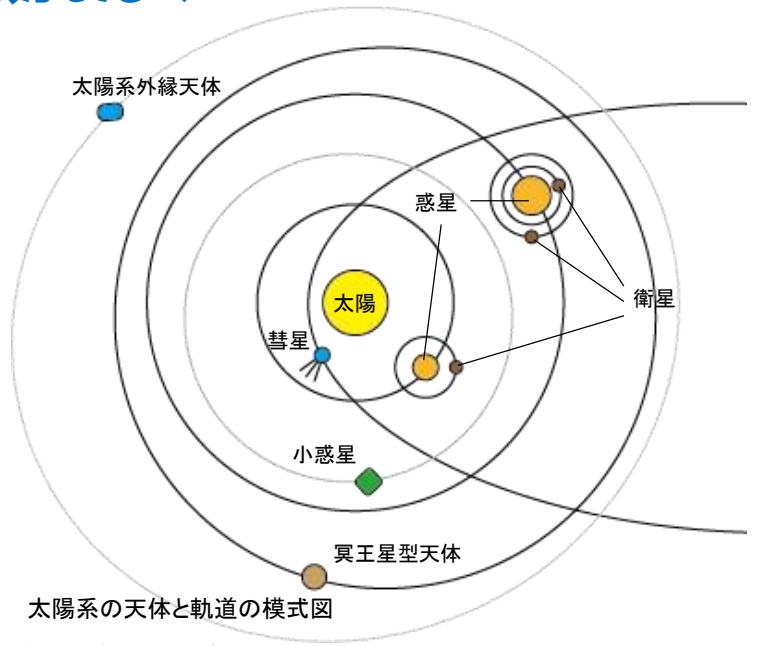
ジオスペース館だより

★太陽系の天体にはどんな種類があるの？

【太陽系の天体 その2】

太陽系は、太陽を中心として、そのまわりを回っている天体の集まりです。太陽系は大きな広がりを持っており、太陽はその強大な重力で太陽系の全ての天体をつなぎ止めています。

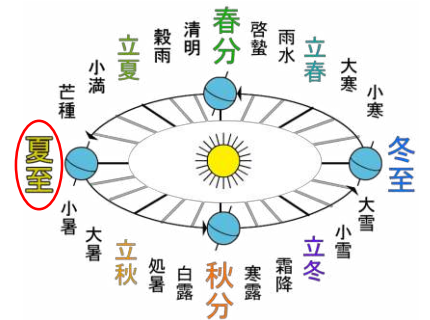
太陽系の天体には、《惑星》《衛星》《小惑星》《太陽系外縁天体》《冥王星型天体》《彗星》などがあります。《惑星》のお話は、昨年度のジオスペース館だよりで特集しましたが、《惑星》とは、太陽のまわりを回り、大きな質量を持っていて、ほぼ球形をしている天体です。太陽に近い内側から、水星・金星・地球・火星・木星・土星・天王星・海王星の、8つの惑星があります。《衛星》は、惑星や小惑星のまわりを回っている天体です。《小惑星》は、主に火星と木星の間に存在する小型の天体ですが、中には比較的大きなものもあります。そして、海王星より外側にあつて、氷でおおわれた小型の天体を《太陽系外縁天体》といいます。このうち、ある程度大きくて球形をしているものを《冥王星型天体》と呼んでいます。さらに、《彗星》は、ほうき星とも呼ばれ、太陽に近づくと長い尾を引いて回る、小さな天体です。これらの天体については、次号以降に、もう少し詳しく紹介していきます。



太陽系の天体と軌道の模式図

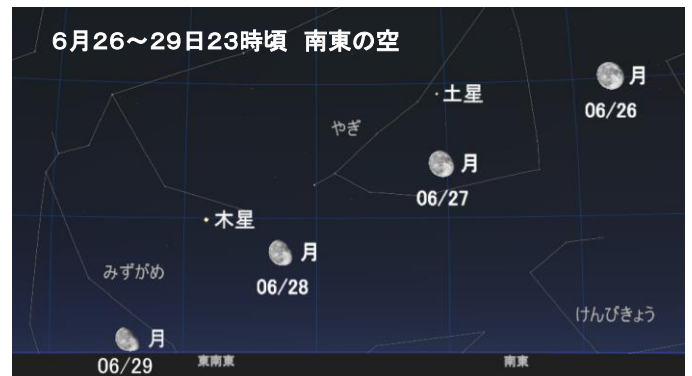
★二十四節気・6月21日は《夏至》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。6月下旬の節気は《夏至》と呼ばれ、毎年6月21日頃になります。《夏至》は、北半球では、1年のうちで昼の時間（日の出から日没まで）が最も長く、夜が最も短い日です。1年で最も暑くなりそうな日ですが、大気が温まるのに時間がかかりますので、このあと8月にむけて暑さが増していきます。



★土星と木星に近づく月に注目！

6月の始め、明け方近くの南の空で、土星と木星に近づく月が観察されましたが、その後、月は約1ヶ月かかって星空を一巡りし、6月26日から29日にかけて、再び、月が土星と木星に近づきます。土星の右下から木星の左下へと、日に日に移動していく月が、今月は朝方を待たなくとも深夜に観察できます。月の動きの速さと季節のめぐりを実感するチャンスです。



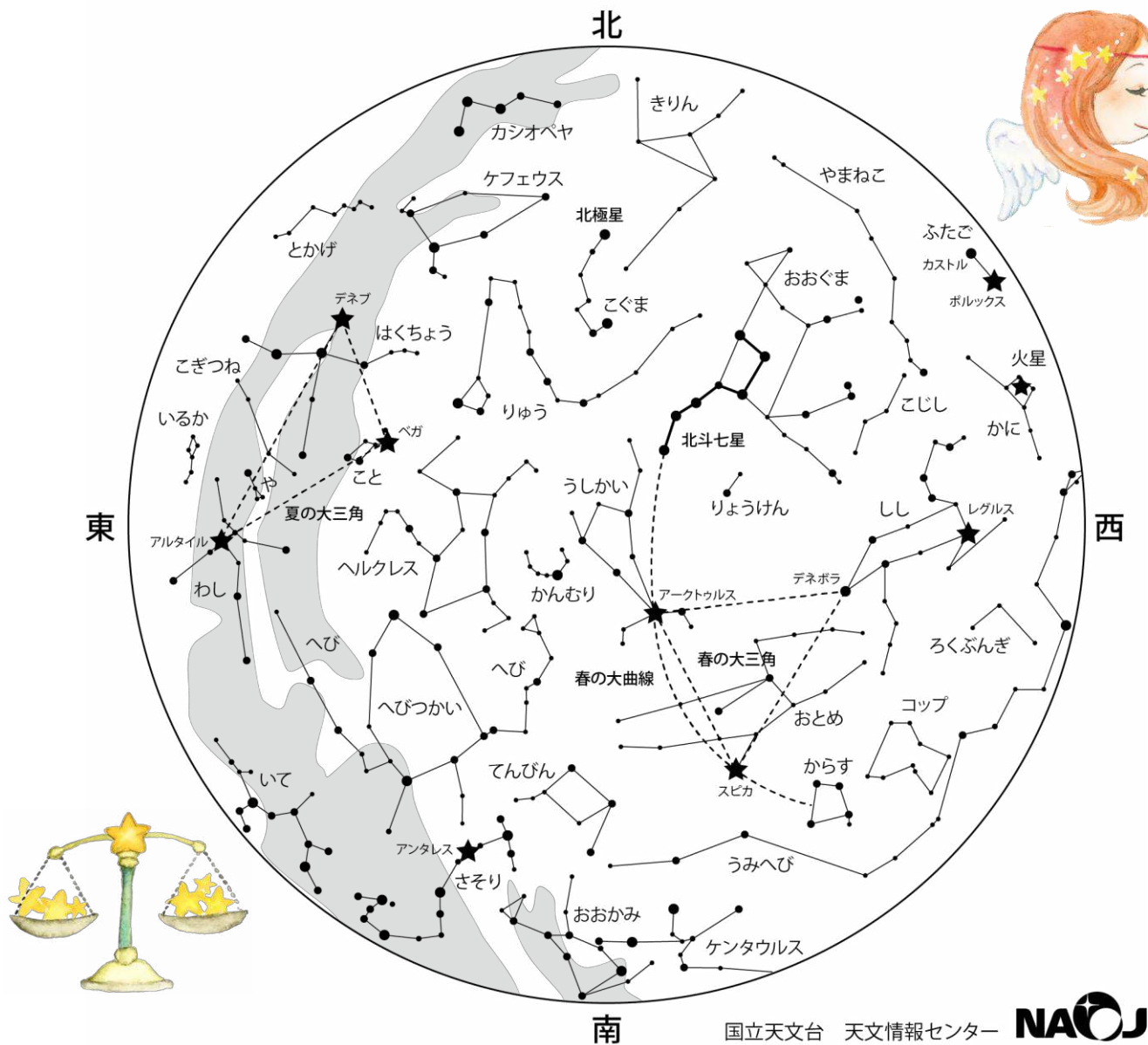
図はステラナビゲーター11を用いて作成、月は大きさを強調しています

★ 6月のプラネタリウムの内容につきましては別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 6/16(水)、21(月)、26(土)の午前、28(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

6月下旬 午後9時頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

★ 6月下旬の主な天文現象

18日(金)	● 上弦 <small>じょうげん</small>	24日(木)	火星とプレセペ星団が最接近 <small>かせい せいだん さいせっけん</small>
20日(日)	木星のガリレオ衛星相互食 <small>もくせい えいせいそうごしょく</small>	25日(金)	○ 満月 <small>まんげつ</small>
	(ガニメデの影にイオが入る) <small>かげ</small>	27日(日)	月と土星が接近 <small>とせい せっけん</small>
21日(月)	夏至 <small>げし</small>	28日(月)	月と木星が接近 <small>もくせい</small>

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 6/15~30) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 6月25日(金)	[見やすさ ○]	3:26 南	~	3:31 東北東
◇ 6月27日(日)	[見やすさ ◎]	3:28 南西	~	3:34 北東
◇ 6月28日(月)	[見やすさ ◎]	2:43 南南東	~	2:46 北東
◇ 6月30日(水)	[見やすさ ○]	2:44 西北西	~	2:48 北北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。